

前回までの検討内容の整理と今後の論点について(案)

1 前回までの検討内容の整理

本年度より第1回検討会より検討を始めた「今後の都におけるモニタリング体制を見直し」について、現在までに検討会から承った意見は次の通りである。

- ① 今までのデータを活用していくこと
- ② 測定地点の属性に注意して解析すること
- ③ データを比較しながら、環境基準達成に向けて何が必要か考えていくこと
- ④ 現在の測定項目が十分か検証すること
- ⑤ 必要な測定はしつつ、社会コストを判断していくこと

これらの意見を念頭に置きつつ、今後の検討の論点を次の通りとし、現状の検証と今後の課題についてまとめていく。

2 今後の論点

(1) 常時監視測定項目の検証(資料2) . . . ①②⑤

環境基準を全測定局で達成できていない光化学オキシダント(以下、「O_x」という。)及び100%達成となっていない二酸化窒素(以下、「NO₂」という。)、微小粒子状物質(以下、「PM_{2.5}」という。)を除き、環境省の事務処理基準等と比較検証し、測定項目の一部見直しを検討する。

特に、環境基準を安定して達成しており、かつ過去30年間見直しを行っていない粒子状物質(以下、「SPM」いう。)について、第2回検討会に引き続き、現在の配置状況を検証する。

(2) より精度の高い測定の実施(資料3) . . . ③④

二酸化硫黄(以下、「SO₂」いう。)及び一酸化炭素(以下、「CO」いう。)については、既に環境基準を達成し、かつ相当低い濃度で推移している。

ただし、両項目はPM_{2.5}やO_xの生成に関連が深いことから、高感度の測定が可

能となれば、いまだ環境基準を達成できていないPM_{2.5}やO_xの高濃度時の挙動を解明するための有用なデータとなりうるため、測定データに有意差が認められない多摩地域等の一部地点について、より高感度の測定機の導入を検討する。

(3) PM_{2.5}成分分析調査の拡充（資料4） ③

毎年度4地点で春夏秋冬の14日間ずつ実施している成分分析調査について、PM_{2.5}の発生メカニズムの解析及び二次生成の状況等をより正確に把握するため、実施期間や実施地点、分析内容について検討する。

特に分析内容について、より詳細な発生源寄与解析をするために、有機マーカ（レボグルコサン等）の活用について検討する。

(4) VOC連続測定におけるモニタリング体制の方向性（資料5） ①③④

PM_{2.5}やO_x対策に資するVOC連続測定の解析結果を踏まえ、短期的及び中長期的な視点に立って、VOCのモニタリング体制を検討する。